

## 日本畜産学会の講演会で「TOKYO Xのブランド戦略」を説明



日本畜産学会第121回大会が3月27日(土)30日の日程で東京都武蔵野市にある日本獣医生命科学大学で開催されている。今回の学会は、開催地東京であることを意識した東京ならではの特徴ある内容をプログラムの中に盛り込み提供。期間中は公開シンポジウム、分野別シンポジウム、優秀発表賞講演、一般講演(口頭、ポスター)、研究交流

会などを実施している。初日の公開講演会では「健康長寿に不可欠な畜産食品の機能と東京発ブランド畜産品」と題して、講演が行われた。第1部は新開省二・東京都健康長寿医療センター副所長から「健康長寿に果たす畜産食品の役割」、齋藤忠夫・東北大学大学院教授)は「乳・乳製品の保健機能」、植村光一郎(写真)・TOKYO X—Associatio会長は「TOKYO Xのブランド戦略」、磯沼正徳・磯沼ミルクファーム代表は「東京牛乳とその歴史・これから」と題して講演した。

この中で、「TOKYO Xのブランド戦略」にコミットTOKYO X—Associatioの植村光一郎会長(㈱ミートコンパニオン常務取締役)は「TOKYO X肉豚の「第一次銘柄化」として超一級品群の環境下への混入販売によるブランド化と話題性の創造。「第二次銘柄化戦略」ではおいしさの訳を知ってもらうため過剰な超一流商品群への展示混入販売を終了させ、自然体の販売形態を心がけたこと。また、販売店を100店舗に絞り、都内全域への拡充を図った。生産工程の優位性の理解を求めた「第三次銘柄化戦略」では、飼料から飼育環境について説明した。そして「第四次銘柄戦略」では消費者が関わりを持つことで、ライフワークとしての食を高め、良い食材を見極める力を養い、その価値を把握して、それに見合った価格で購入。その購買活動は、優れた生産活動をする生産農家に活力を与えることを説明。第2部では「畜産食品と健康」についてパネルディスカッションが行われた。

## 「企業倒産」飲食店クオンダイニング(東京) 破産手続き開始決定

㈱クオンダイニング(資本金300万円、江戸川、島田義一代表)は9日に東京地裁より破産手続き開始決定を受けた。破産管財人は小川宏弁護士(新宿区)。同社は、2001年12月創業、2003年11月に法人改組。都内で「炭火焼ホルモンよっちゃん」や、串焼き店など約5店舗を経営していた。近隣住民やサラリーマン、OLを対象としたリーズナブルな価格帯での展開で、新規出店したホルモン焼き店の売り上げが伸長した2010年9月期には年間売上高約2億3000万円を計上していた。しかし近年は生肉・ユッケの品質騒動などの影響を受け売り上げの減少が続いていた。従業員の削減など販管費の縮小に努めていたものの、収支状況がひっ迫。内部留保もぜい弱化し、支え切れず今回の措置となった。負債は約1億円。(帝国データバンク)